

2026 年 10 月 29 日

マラリアや顧みられない熱帯病（NTDs）、エボラウイルス病などの 新興・再興感染症の製品開発に約 10.6 億円を投資

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下、GHIT Fund）は、マラリアや顧みられない熱帯病（NTDs）、エボラウイルス病をはじめとした新興・再興感染症の治療薬、ワクチン、診断薬の製品開発 9 件に、合計約 10.6 億円の投資（助成）を決定しました¹。

細菌感染性の眼の疾患トラコーマに対する迅速診断検査の臨床評価、薬事承認および実運用導入に約 4.5 億円を投資

トラコーマはクラミジア・トラコマチスという細菌の感染によって引き起こされる眼疾患で、世界で約 190 万人の失明または視覚障害の原因となっています。現在、約 9,200 万人がトラコーマの流行地域で暮らしており、失明のリスクにさらされています²。

現在、トラコーマ対策は抗生物質の集団投薬に依存しており、集団投薬の開始・中止決断のガイドとなる迅速検査キットが求められています。GHIT Fund は、Drugs and Diagnostics for Tropical Diseases(DDTD)、株式会社医学生物学研究所、カーター・センターおよび Big Eye Diagnostics, Inc. が共同で推進するトラコーマ迅速診断検査の開発プロジェクトに対し、約 4.5 億円の投資をすることを決定しました。本プロジェクトは、2024 年より GHIT Fund が支援を行っているもので、WHO 目標製品特性に完全適合する診断検査の確立を目指しています。今回の投資により、臨床評価、薬事承認および実運用への導入をさらに加速させます。

死者 4,500 人を超えるエボラウイルス病の迅速診断の開発が急務、約 2.1 億円を投資

2026 年 5 月 17 日（日本時間）、世界保健機関（WHO）がコンゴ民主共和国およびウガンダにおけるブンディブギョウイルスによるエボラウイルス病の発生に対し「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言して以降、GHIT Fund は、エボラウイルスを含むフィロウイルス感染症の迅速診断技術および POC（ポイント・オブ・ケア）検査の製品開発支援を強化してきました。2026 年 10 月 21 日時点で、コンゴ民主共和国で死者 4,500 人を超える流行が報告されており³、感染拡大を防ぐためには感染者を早期に特定し隔離するための迅速な診断手段の確立が急務となっています。こうした状況を受け、当基金はエボラウイルス病の迅速診断技術開発を進める 3 つのプロジェクトに対し、合計約 2.1 億円の投資を決定しました。詳しくは別紙 1 をご覧ください。

- 1) 株式会社医学生物学研究所および長崎大学によるブンディブギョウイルス迅速検出のための RT-LAMP／核酸クロマトグラフィー診断デバイスの開発プロジェクト
- 2) 埼玉大学によるブンディブギョウイルスを対象としたラテラルフロー免疫測定法の開発プロジェクト

3) 栄研化学株式会社によるブンディブギョウイルス検出用 LAMP 法検査薬の開発プロジェクト

その他にも、西アフリカに広く分布しているラッサ熱に対する次世代ワクチンの開発プロジェクトや、重篤なアウトブレイクを引き起こす可能性のあるニパウイルスとヘンドラウイルスに対する対策となる迅速抗原検査の開発プロジェクト、またマラリアやデング熱、チクングニア熱、シャーガス病などの顧みられない熱帯病に関する製品開発など以下の 5 つの研究開発プロジェクトに対して、合計約 4 億円の投資を決定しました。

- 1) 大阪大学の 3 研究機関（先端モダリティ・DDS ワクチン開発拠点（CAMaD）、微生物病研究所（RIMD）、医学系研究科（UOsaka Med））とテキサス大学医学部ガルベストーン校（UTMB）による、ラッサウイルスに対する二価 mRNA-脂質ナノ粒子ワクチンの開発、製剤最適化および効果の評価に関するプロジェクト
- 2) PATH と iBody 株式会社による、重篤なアウトブレイクの危険性があるニパウイルスとヘンドラウイルスの流行性・致死性疾患に対する高性能免疫グロブリンの戦略的創出プロジェクト
- 3) エーザイ株式会社、Medicines for Malaria Venture (MMV) による、バイオインフォマティクスと機械学習を用いた抗マラリア活性の向上を目指すアンチセンスオリゴヌクレオチドのデザインならびにスクリーニングプロジェクト
- 4) 長崎大学、エーザイ株式会社、Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)、ダンディー大学による、シャーガス病治療薬の開発成功率向上を目指し、革新的アプローチを導入した創薬プロジェクト
- 5) 株式会社ビズジーン、宮崎大学、マヒドン大学、ペルーのサンマルコス大学、ペルーの生物医学・環境技術研究センターによる、デングウイルス血清型別およびチクングニアウイルスを検出する迅速全血マルチプレックス抗原検査プロジェクト

各プロジェクトの概要や開発段階など、詳しくは別紙 1 をご覧ください。

2026 年 9 月 30 日時点で 53 件のプロジェクトが進行しており、その内訳は 26 件の標的・探索研究、14 件の非臨床試験、13 件の臨床試験⁴となります。GHIT Fund のこれまでの累積投資金額は約 481 億円となります。詳しくは別紙 2 をご覧ください。

注記

¹ これらの案件は、公募 RFP2025-002 および RFP2026-001（標的研究プログラム、スクリーニング、ヒット・トゥ・リードプログラム、製品開発プログラム）の中から選定され、承認されたものです。

² WHO（世界保健機関）<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/trachoma> 参照

³ Centers for Disease Control and Prevention <https://www.cdc.gov/ebola/situation-summary/index.html> 参照

⁴ 薬事申請の段階にある案件を含みます。診断薬開発において、途上国における患者サンプルを使用した臨床的妥当性の評価を行う段階に入った案件については、表現の便宜上、臨床試験として扱っています。



【グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）は、日本政府（外務省、厚生労働省）、製薬企業などの民間企業、ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病（NTDs）などの感染症と闘うための新薬開発への投資を行っています。治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、GHIT Fund は日本の製薬企業、大学、研究機関の製品開発への参画と、海外の機関との連携を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org/jp> をご覧ください。

別紙 1. 今回の投資案件概要

ID: G2026-104

プロジェクト タイトル	WHO 目標製品特性（TPP）に完全適合し、現地での性能評価に対応可能 で量産可能なトラコーマ迅速診断検査の規制審査(薬事承認)および実運用 導入に向けた開発推進
製品開発 パートナー	1. Drugs & Diagnostics for Tropical Diseases（米国） 2. 株式会社医学生物学研究所（日本） 3. カーター・センター（米国） 4. Big Eye Diagnostics, Inc. (BEDx／米国)
疾患	トラコーマ
製品	診断薬
開発段階	臨床評価、承認申請
投資額	¥ 456,338,720
ステータス	継続
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、G2024-108 で TPP 適合性と量産可能性を示したト ラコーマ用ディップスティック検査を、2028 年の規制審査および実運用開始 へ進めることです。そのために、測定性能試験および臨床性能試験を実施 し、導入判断に必要なエビデンスを整備します。また、指先採血対応のカセ ット型検査については、その必要性和実現可能性を評価します。さらに、 Pgp3 感作済み凍結乾燥 MBA 試薬を量産前のパイロットロット製造段階へ発 展させます。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトでは、WHO および関連専門家との協議を通じて測定性能 試験および臨床性能試験の計画を策定し、パイロットロットを用いて評価 を行います。その結果を基に規制審査用資料を整備し、2028 年の実運用 開始を目指します。MBA 試薬については、工程最適化、スケールアッ プ、再現性評価、熱安定性評価および外部性能評価を実施し、量産化に向 けた基盤を構築します。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/281/jp

ID: G2026-124

プロジェクト タイトル	ブンディブギョ型エボラウイルス迅速検出のための RT-LAMP／核酸クロ マトグラフィー診断デバイスの開発
製品開発 パートナー	1. 株式会社医学生物学研究所（日本） 2. 長崎大学（日本）
疾患	エボラウイルス病
製品	診断薬
開発段階	製品デザイン

投資額	¥ 171,000,000
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、ブンディブギョ型エボラウイルスを迅速かつ簡便に検出できる新しい診断デバイスを開発することです。流行地域では検査設備や専門人材が不足していることから、本プロジェクトでは高度な検査室を必要とせず、医療現場や地域診療所などの現場環境でも利用可能な検査システムの実現を目指します。これにより、感染者の早期発見と迅速な感染対策を支援し、感染拡大の抑制に貢献します。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトでは、ウイルスの遺伝子を短時間で増幅する RT-LAMP 法と、結果を目視で確認できる核酸クロマトグラフィーを組み合わせた新しい診断法を開発します。本プロジェクトで開発する「MEBLINE BDBV」は、PCR 法のような複雑な温度制御装置を必要とせず、簡便な装置で遺伝子を増幅できる診断システムです。高精度な遺伝子検査に近い検出性能と、抗原検査のような簡便さ・迅速さを両立することで、流行現場での迅速な患者発見を支援します。また、本技術は他のエボラウイルスにも応用できる可能性があり、将来の流行への備えとしても期待されています。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/282/jp

ID: T2026-193

プロジェクト タイトル	コンゴ共和国におけるエボラ出血熱ブンディブギョ株を対象としたラテラルフロー免疫測定法の開発および現地調査
製品開発 パートナー	1. 埼玉大学（日本）
疾患	エボラウイルス病
製品	診断薬
開発段階	テクニカルフィージビリティ
投資額	¥ 20,000,000
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、エボラウイルス感染を 15 分以内に高感度で検出できる携帯型診断キットを開発することです。検査室に依存せず、流行地域の医療従事者がその場で使用できるため、感染者の早期発見と迅速な隔離・治療につながります。将来的には、世界保健機関（WHO）が推進する感染症対策に活用され、エボラ流行の抑制と世界の公衆衛生向上に貢献することを目指します。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトでは、まずエボラウイルス特有の抗原と高性能抗体を選定します。次に、独自の AIE 蛍光ナノ粒子技術を利用して超高感度な診断

	キットを作製し、検出性能を最適化します。その後、高温多湿な環境での安定性や医療従事者による操作性を評価し、実際の流行地域で使えるレベルまで開発を進めます。さらに、将来の臨床試験や WHO 事前認証取得を見据えた準備も行います。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/283/jp

ID: T2026-194

プロジェクト タイトル	ブンディブギョウイルス検出用 LAMP 法検査薬の開発
製品開発 パートナー	1. 栄研化学株式会社（日本）
疾患	エボラウイルス病
製品	診断薬
開発段階	テクニカルフィージビリティ
投資額	¥ 19,506,586
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、ブンディブギョウイルス（BDBV）を迅速かつ特異的に検出できる逆転写 LAMP 検査薬のプロトタイプを開発することです。既存のリアルタイム PCR と同等の感度を維持しつつ 15 分という迅速な判定実現を目標とします。また、複数のリアルタイム PCR 装置での使用可能性を評価します。最終的に本プロジェクトにて開発されたプロトタイプは、臨床応用を見据えて WHO 等の公的機関による外部事前評価を受け、その有用性を示すことを目指します。 【プロジェクト・デザイン】 6 か月間で 3 段階の開発を行います。第 1 段階では、公開されている BDBV の遺伝子配列を比較し、保存性の高い領域に LAMP プライマーと蛍光プローブを設計します。非感染性の合成 RNA 等を用いて有望な候補を選定し、迅速かつ特異的に検出できる反応条件を設定します。第 2 段階では、模擬血液・血漿検体等を用いて感度、妨害物質の影響、複数装置での適合性を評価します。第 3 段階では、凍結乾燥したプロトタイプに仕上げ、既存設備で 1 万テスト分を製造し、性能評価を実施します。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/284/jp

ID: T2025-257

プロジェクト タイトル	ラッサウイルスに対する二価 mRNA-脂質ナノ粒子ワクチンの開発、製剤最適化および効果の評価
製品開発 パートナー	1. 大阪大学先端モダリティ・DDS ワクチン開発拠点（CAMaD／日本） 2. 大阪大学微生物病研究所（RIMD／日本） 3. テキサス大学医学部ガルベス校（UTMB／米国）

	4. 大阪大学医学系研究科 (UOsaka Med／日本)
疾患	ラッサ熱
製品	ワクチン
開発段階	ワクチンデザイン
投資額	¥ 100,000,000
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、ラッサウイルス GPC と NP の両方を単一のバイシストロニック mRNA に組み込むことで、安全で有効性が高く、現場で使用可能な二価 mRNA-LNP 型ラッサウイルスワクチンの開発を進めることです。このアプローチにより、抗原の幅を広げ、防御免疫を強化し、将来的にリソースが限られる地域での導入を見据え、製造工程の効率化も図ります。プロジェクト期間中には、実際のラッサウイルス感染モデルを含む複数の動物モデルでワクチンの有効性と免疫原性を評価し、LNP の熱安定性を高めるための最適化も行います。これらの取り組みにより、熱安定性が高く、広く利用しやすいラッサウイルス mRNA ワクチンの臨床開発への移行を加速させます。 【プロジェクト・デザイン】 私たちは、ラッサウイルス GPC と NP をコードするバイシストロニック mRNA を開発・評価し、その品質と製造適性を確認するための各種解析試験を実施します。バイシストロニック mRNA-LNP は、免疫原性と防御効果を評価するために BSL-2 の感染モデルで試験し、有望な候補は BSL-4 施設で実施される、実際のラッサウイルス致死性モルモットモデルでさらに評価します。LNP の熱安定性を高めるため、凍結乾燥や組成調整による最適化を行い、高温条件での安定性を検証します。将来の臨床生産に適した制御混合法を用いて、前臨床グレードのワクチンロットを製造できるスケラブルな製造プロセスも確立します。最後に、臨床開発への移行を支えるため、BSL-4 の致死性モルモットモデルで防御効果を評価します。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/285/jp

ID: T2026-152

プロジェクト タイトル	流行性・致死性疾患に対する高性能免疫グロブリンの戦略的創出 (SHIELD)
製品開発 パートナー	1. PATH (米国) 2. iBody 株式会社 (日本)
疾患	ニパウイルス/ヘンドラウイルス感染症
製品	診断薬
開発段階	テクニカルフィージビリティ
投資額	¥ 99,900,000
ステータス	新規

概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目標は、ニパウイルス（NiV）およびヘンドラウイルス（HeV）の感染を検出し、それぞれを見分ける事が可能な、耐久性が高く使いやすく、高精度な迅速抗原検査（RAT）を、手頃な価格で提供する事です。このツールにより、医療資源の限られた地域における集団感染の早期発見が可能となるため、感染拡大を抑制して、人命を救う事につながります。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトでは、適切な免疫原の選定、革新的な抗原設計、そして、iBody 社の独自技術によるメモリーB 細胞を対象とした抗体スクリーニングを組み合わせる事で、高い特異性を持つ Fab を極めて迅速かつハイスループットに特定します。特定された抗体は配列解析後にリコンビナント IgG として調製され、免疫測定への適合性や性能について PATH による評価が行われます。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/286/jp

ID: S2025-211

プロジェクト タイトル	バイオインフォマティクスと機械学習を用いたアンチセンスオリゴヌクレオチドの抗マラリア活性の向上
製品開発 パートナー	1. エーザイ株式会社（日本） 2. Medicines for Malaria Venture (MMV/スイス)
疾患	マラリア
製品	治療薬
開発段階	化合物探索
投資額	¥ 24,031,200
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの主目的は、バイオインフォマティクスおよび機械学習アルゴリズムを活用し、これまでの成果をさらに発展させ、複数のマラリア原虫種の標的に対し有効で高活性な アンチセンスオリゴヌクレオチド（ASO）を同定することです。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトでは、バイオインフォマティクスを用いて 熱帯熱マラリアおよびマウスマラリア遺伝子の保存領域を標的とする ASO をデザインします。これらの ASO を、熱帯熱マラリア（赤血球期） およびマウスマラリア（肝臓期） に対する標準的アッセイを用いてスクリーニングします。得られた結果は、ASO デザインを最適化するための機械学習アルゴリズムに統合されます。このスクリーニングにより、高活性かつ広範な標的網羅性をもつ ASO を同定し、既存の遺伝学的ツールを用いて、目的とする標的に対する活性の検証へつなげることを目指しています。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/287/jp

ID: T2025-261

プロジェクト タイトル	シャーガス病創薬における成功率向上のための革新的アプローチ
製品開発 パートナー	1. 長崎大学（日本） 2. エーザイ株式会社（日本） 3. Drugs for Neglected Diseases initiative（スイス） 4. ダンディー大学（英国）
疾患	シャーガス病
製品	治療薬
開発段階	化合物探索
投資額	¥ 99,910,714
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、創薬の初期段階で有望な候補化合物をより確実に見極め、シャーガス病治療薬の開発成功率を高めることにあります。具体的には、以下の取り組みを進めていきます。 1. 治療薬候補化合物が寄生虫を完全に排除できる可能性を評価するための新規試験系の開発・検証 2. これらの試験を活用した、将来の治療薬候補となる新規化合物の探索 3. より安全で効果的な治療法を設計するため、特定の薬剤併用が特に有効となる理由の解明 これらの成果により、創薬パイプラインの最も有望な化合物だけが確実に次の段階へ進むようになり、後期開発段階での失敗リスクを大幅に減らすことができます。結果として、患者を治療へ導く可能性の高い治療法が開発されるようになります。 【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトは、互いに補完し合う3つの研究コンポーネントで構成されています。 1. ハイスループット試験 まず、ヒト細胞内にてシャーガス寄生虫を化合物がどれだけ迅速に殺すかを評価する試験を用いて、大量の化合物を効率的にスクリーニングします。これにより、高い殺虫活性を示す候補化合物を迅速に絞り込みます。 2. イメージングベースの再発評価試験 次に、投与終了後に寄生虫が再び増殖するかどうかを観察する補完的な試験を行います。このプロセスを通じて、寄生虫を完全に排除できる化合物を確実に選び出すことができます。 3. 薬剤併用の作用メカニズム解析 最後に、特定の薬剤併用が単剤よりも優れた効果を示す理由を解明します。こうした作用の背景にある生物学的メカニズムを理解することで、より効果的な併用療法の設計につなげます。

	これら3つの取り組みが連携することで、迅速なスクリーニングから生物学的メカニズムの深い理解へとつながるパイプラインが構築され、より堅牢で信頼性の高い研究成果を得ることができます。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/288/jp

ID: T2025-283

プロジェクト タイトル	デングウイルス血清型別およびチクングニアウイルスを検出する迅速全血マルチプレックス抗原検査
製品開発 パートナー	1. 株式会社ビズジーン（日本） 2. 宮崎大学（日本） 3. マヒドン大学（タイ） 4. サンマルコス大学（ペルー） 5. 生物医学・環境技術研究センター（ペルー）
疾患	デング熱・チクングニア熱
製品	診断薬
開発段階	テクニカルフィージビリティ
投資額	¥ 77,790,558
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は、デングウイルス（1～4 型）およびチクングニアウイルスを全血から 15 分以内に同時検出・識別可能な迅速抗原検査キットを開発・検証することです。デングウイルスでは血清型の違いが臨床経過や重症化リスクに影響することが知られており、本検査は早期診断と適切な患者対応、ならびにアウトブレイク対策への貢献を目指します。 【プロジェクト・デザイン】 デングウイルス NS1 抗原の血清型特異的検出技術と、チクングニアウイルス E1 抗原に対するモノクローナル抗体を、迅速イムノクロマト検査プラットフォームに統合します。タイおよびペルーで臨床評価を行い、将来の規制承認および WHO 事前認証を見据えた開発を進めます。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/289/jp

別紙 2. これまでの投資実績（2026 年 9 月 30 日時点）

累積投資額 約 481 億円

累積投資件数 158 件（内訳：進行案件 53 件、終了案件 105 件）

詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

投資実績：<https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp>

ポートフォリオ：<https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>

開発状況：<https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp>

臨床試験：<https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp>

【注意事項】

1. GHIT Fund では、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。
2. 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。
3. 本プレスリリースの別紙 1 に記載した各プロジェクト概要は、製品開発パートナーが GHIT Fund に提出した資料から該当箇所を抜粋したものです。詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。